

涼感みやざき



特集

「東大宮地域太陽光発電・設置状況調査協議会」の活動について

活動レポート 平成27年度 第1回推進員スキルアップ研修

「エネルギーも自給自足の時代？どう変わる？私たちの未来！」

講師：兎洞 武揚 氏

一步いっぽ 推進員だより

椎屋 翠鈴さん（綾町）

実践者募集！「私の省エネクッキング！」応募レシピ



特集 「東大宮地域太陽光発電・設置状況調査協議会」の活動について

「東大宮地域太陽光発電・設置状況調査協議会」は平成26年9月に、宮崎市東大宮地域において太陽光発電システムの設置状況及び発電状況について調査を行い、自家消費分を環境価値として販売し、地域の環境保全に還元することを目的に発足。今回は、協議会の吉田昌良会長、渡邊成信副会長にお話を伺ってきました。

東大宮地域太陽光発電・設置状況調査協議会とは？

(吉田会長)平成26年9月に発足した、宮崎市東大宮地域内の協議会です。東大宮地域内にどれくらい太陽光発電システムが設置されていて、またそれぞれの発電量、売電量の聞き取り調査を行いました。本協議会の目的は、「太陽光発電システムで生み出された電力の自家消費量分」について、CO₂を排出していないクリーンな電力として環境価値を認め、証書化して販売することです。販売したお金を地域内の環境保全や環境教育、地域活性化に役立てたいと考えています。

協議会のメンバーは、地区内の自治会長と太陽光発電システムに関する有識者、地球温暖化防止活動推進センターで構成されています。月に1回会議を設け、調査に関する進捗状況や、証書化に向けての枠組み作りを行っています。



▲渡邊副会長(左)と吉田会長(右)

クリーンな電力としての太陽光発電システム？



(渡邊副会長)昨今では、だいぶ太陽光発電を付けている人が増えてきました。太陽光発電システムは、売電により家計への足しになる側面も大きいのですが、何より、地球温暖化防止に大きく貢献していると私は考えています。購入した電力の多くは火力発電所から送られていますが、自宅の屋根の上で作られた電気はとても環境に優しい電気であると言えます。売電量にばかり目が向かがちですが、自宅で消費している「自家消費分」にも環境価値があるし、その量を確定することで、「東大宮地域では〇〇gのCO₂を削減している」と表明出来ます。これから新規にシステムを設置する人はもちろんですが、既存設置の方々に対してもそういう点をご理解をいただき、さらに地域の環境に還元させていきたいと考えています。

平成26年度の予備調査について

26年度は証書化に向け、地域内に太陽光発電により生み出された電気の自家消費量がどれくらいあるのかを、まずは調査しました。結果は以下の通りです。

調査範囲

宮崎市東大宮地域(花ヶ島ニュータウン、北花ヶ島団地、村角、自由ヶ丘団地、火切塚、波島1、波島2、波島3、波島4、大島団地、大島西団地、大島北団地、大島町本村、大島町平原、大島町原、大島町笠原、大将掘、神宮駅東団地、東花ヶ島、雁ヶ音中央団地、雁ヶ音西、雁ヶ音花ヶ崎、雁ヶ音北、雁ヶ音東団地、灰作、桜町

調査概要

太陽光発電システムを設置している対象地域内一般家庭に、①設置年月日、②設置規模(kW、枚数)の基礎情報と、平成26年7月～9月の③発電量、④売電量、⑤自家消費電力量(③から④を引いたもの)を任意で記入し情報を提供していただき取りまとめを行う。

調査結果

354世帯に訪問、112世帯より回答をいただき、自家消費量を算出した結果、44,045kW/hとなった。これに2013年のCO₂排出係数(0.612)をかけることで、約26.955kg-CO₂となり、当該地域内で証書化できる見込みのあるCO₂量は約27トンとなった。

今後の動きについて

(吉田会長)昨年度の予備調査の結果を受けて、地域内に十分証書化できる自家消費量があると分かりました。現在「東大宮地域CO₂削減俱楽部」の立ち上げを予定しています。改めて地域内の太陽光発電設置者に向けて入会を呼びかけ、証書化に向けて自家消費量を確定させていく予定です。事業にご理解をいただき、地域と行政が一体となって、まずは東大宮から意識を高めていかなければと思います。

(渡邊副会長)地域内に太陽光発電を付けている保育所などもあります。本事業の還元の1つとして、子どもたちを対象に「おひさまの力」を伝えたいと思っています。温暖化の影響を一番受けるのは子どもたち。子どもの頃から意識することできっと地域が変わっていくと思っています。子どもや孫にこの世界を引き継ぐためには地球を守らなくてはいけない、そう思います。



活動 レポート

平成27年度 第1回 宮崎県地球温暖化防止活動推進員スキルアップ研修

平成27年1月16日(土)に、『エネルギーも自給自足の時代？どう変わる？私たちの未来！』と題して、宮崎県地球温暖化防止活動推進員スキルアップ研修を開催しました。

まず、NPO法人宮崎文化本舗理事 石田 達也より『地域資源を活かした温暖化防止の取り組み』の事例発表において、COP21の最新情報に触れながら、オーストリアのギッシング地区の取り組みが紹介されました。ギッシング地区は宮崎県綾町の半分の大きさ程ですが、自分達の地域に必要なエネルギーは自分達で生産しています。

気候は違えど考え方は真似できるのでは、ということで、県内でも環境問題に早くから取り組んでいる綾町で開催しました。ギッシングの事例を聞いて「エネルギーを自分達で作って売るということが夢ではないことが分かり、希望が持てました」などの声が上がりました。

株式会社 博報堂ブランドデザイン副代表 兎洞 武揚(うどう たけあき)氏を講師にお招きして、基調講演とワークショップを行いました。基調講演では、私たちの未来と一緒に創るための、伝える・巻き込むアプローチの方法等をお話いただきました。4人ずつ4班に分かれて、今日の講演・事例発表を聞いて思ったことを、思い思いに模造紙に書き込み、皆が感じたこと思ったことをその場で共有し、他の班の方に伝えるというワールドカフェ方式のワークショップを行いました。「何も出来ていないことに悩んでいたので、今日参加した事で他の方の活動や意見を知り、目から鱗が沢山落ちました。参加して本当に良かったです。」(推進員)等の意見が寄せられました。様々な場に参加することで人と人が繋がり、想いが形になっていく。体験することは大切だと改めて気付かされた研修となりました。

第2回のスキルアップ研修は、楽しく気軽に取り組める“新聞バッグ”と“ダンボールを利用したランタン”的作成をします。皆様のご参加をお待ちしております。



一歩いっぽ 推進員だより

しいや みすず
椎屋 翠鈴さん(綾町)



▲布おむつカバー

私は、フリーランス保育士として8年間活動しており、触れ合い親子講座を開催しています。その中のひとつに布おむつ講座があり、3人の我が子を布おむつで子育てした経験を多くのお母さんたちへ伝えています。4年ほど前に推進員のお話をいただき、布おむつの活動を活かせる場であると考え、推進員になりました。

布おむつ講座では、布おむつ・カバーの作り方や使い方だけでなく、自分の経験を元に『無理をしない取り入れ方』を伝えています。紙おむつと布おむつの最大の違いは、洗って繰り返し使用できる点です。ゴミが出ずエコに繋がります。しかし子育てをする環境によっては、布おむつだけを使おうとすると『疲れる』こともあります。紙おむつの上に布おむつを1枚置くだけでも消費のペースが違ってくるので、無理をせず自分の体調やペースに合わせて取り入れて下さいね。

また、東日本大震災の際には、紙おむつの不足に困る南三陸町のお母さんたちへ紙おむつの支援物資を送りました。布お

むつの生活に慣れていると、タオルや古着で代用するといった臨機応変に対応できる知恵を身につけることができるで、風水害の多い宮崎に住むお母さんたちにも災害時についてお伝えしています。

今後、布おむつの本を出す計画です。布おむつ生活は、親子の触れ合いが増えるメリットもあれば、頑張りすぎるとストレスになりかねないデメリットもあります。そういう実体験から生まれた情報と、布おむつ講座に参加してくださったお母さんたちの体験談も載せて、より多くの方へ魅力を伝えていきたいと思っています。現在、1枚でサイズアップにも対応できる布おむつカバーも仲間と考案中です。

私は、『ママが楽しむ』をテーマに活動しています。お母さんが自分の心地良さや楽しさと言った自分の感覚を大切にして欲しいと願っています。





「私の省エネクッキング！」応募レシピ 実践者募集♪

平成27年11月から12月にかけて省エネレシピを募集いたしました。皆様にご応募いただいた全レシピをホームページで公開しています。各レシピのエコポイントやCO₂排出削減量も公開していますので、ぜひご家庭で作ってみてください。作った方は、ページ内のpochボタン(右写真参照)を押してぜひご報告ください。



省エネレシピ公開中

<http://www.mc3a.org/ecocook/>



以下のメニュー以外もたくさん掲載しています♪



鶏ハム



肉巻卵



照焼チキン



蕪の皮と葉のかつお節かけ



南郷シーカワーサー丸ごとクッキー



ポット＆圧力鍋で省エネ！
簡単美味しいお赤飯♪



梅漬けしそとゴーヤの和えもの



さやえんどうのシーチキン炒め



エコグッズ

このコーナーでは、生活の中に取り入れができる様々なエコグッズの紹介を行っていきます。今回は、上の記事でも取り上げている「鍋帽子®」について。上手に活用してエネルギーを節約しましょう♪

◆◆▲◆● 鍋帽子® ◆◆▲◆●

鍋帽子は、鍋にかぶせて使用するキッチン用品です。発祥は約20年前に、広島友の会。各家庭でできる省エネ術として発案され、「婦人之友 2000年11月号」に掲載されたことから、全国に広まっています。2003年4月財団法人全国友の会振興財団の登録商標として認められ、鍋帽子を使ったレシピ本も発刊されています。

◆◆▲◆● 使い方 ◆◆▲◆●

鍋帽子は煮物を作る時に大活躍します！

- ①まずは材料を切り、炒め、調味料を入れ、ひと煮立ち。
- ②コンロから降ろして鍋帽子を被せます。
- ③30分ほどでしっかりと味が染み込んだ煮物が完成♪

カレーや肉じゃが、
おでんがオススメ。
お米も炊けるんですよ♪

魔法の鍋帽子®

かぶせておくだけ！ふっくら保温調理



魔法の鍋帽子：婦人之友社

宮崎県地球温暖化防止活動推進センター通信「涼感みやざき」

発行：宮崎県地球温暖化防止活動推進センター（運営：特定非営利活動法人 宮崎文化本舗）／編集：山内 葵

〒880-0014 宮崎県宮崎市鶴島2丁目9-6 みやざきN P Oハウス101

電話：0985-60-3911 / ファックス：0985-89-4979 / メールアドレス：mcccaoffice@mc3a.org

ホームページ：<http://www.mc3a.org/>